



# 性的指向をめぐる基礎知識

性のあり方は、一人ひとり違っている

目玉焼きに何をかけるか、インドア派かアウトドア派か、といった事柄に個人差があるように、性のあり方にも実は個人差があるのですが、あまりこの「ちがいは知られていません。人間は男と女の二種類しかおらず、異性を好きになることだけが正常で自然な恋愛の仕方だと思ってしまうか。

男性や女性にもいろいろな個性や外見の人がいて一〇〇人いれば一〇〇通りの生き方がありま

すし、そもそも自分を男女どちらかに分類されることに違和感を覚える人もいます。恋愛のあり方もさまざまです。

この節では性の多様性を語る上で、基本的な考え方となる四要素の話から始めましょう。



## 誰もが持っている性の四要素

私の血液型はA型です。性格は几帳面ではないので、よくO型に間違えられます。これを読んでいる方の中には、私と同じA型の人もいれば、B型やAB型、O型、よくわからないという方もおられると思います。血液型と同じように、すべての人は性に関する以下のような四要素を何らかの形で持っています。

一つめは、**生物学的な性（セックス）**です。これはみなさんが生物学的にオスなのかメスなのかを表す解剖学的、遺伝学的な事柄です。

だいたい人は誕生と同時に生物学的な性が判定されます。まれに生物学的な性が判別しにくい体で生まれてくる性分化疾患の赤ちゃんがいますが、精密検査をすれば性別判定が可能です。

性分化疾患の中には、生まれたときにはわからなかったけれど成長した後「生理が来ないの調べてみたら子宮がなかった」「声変わりせず検査したら性染色体がXY型でなかった」などということがわかる人もいます。この場合、不妊であることや、自分が本物の男性や女性であることみなされなくなることへの恐怖などで苦悩することもあるようです。

性分化疾患の男性や女性のことをインターセックスと呼ぶ人たちもいますが、インターという言葉が「中間」を想起させるので、当事者の中ではこの呼ばれ方を好まない人たちもいます。女性が癌で乳房を失っても女性であるように、先天的な疾患によって他の人たちと少し異なる身体を持つ男性や女性をわざわざ「中間」とは呼びません。同じ理由で、（癌で乳房を失った女性を性

的少数者と呼ばれるように）性分化疾患を性的少数者に含めるかどうかにも多様な議論が行われています。性分化疾患について詳しくお知りになりたい方は、ネクスDSD日本のウェブサイト (<https://www.nexdsd.com/>) が大変充実しているので一読をおすすめします。

二つめは、**性自認**（ジェンダー・アイデンティティ）です。これは、自分をどのような性別だと認識するかという内的な感じ方のことを指します。性自認は男性か女性の二択ではなく、人によっては「七〇%くらい男性だけど、自分のことをすごく男性だとも思わない」「どちらでもない」「どちらの要素も自分にはある」と感じる場合があります。

三つめは、**性的指向**（セクシュアル・オリエンテーション）です。これは自分がどのような性別にロマンティックないしセクシュアルな好意を寄せるのかを表します。男性が好きなのも、女性が好きなのも、どちらも好きになる人も、性別なんてそもそも重要でない人も、他者に恋愛や性愛の感情を抱かない人もいて、個人差があります。

最後に、**性表現**（ジェンダー・エクスプレッション）という要素があります。これは自分の髪型や服装、仕草、振る舞い方、好きなものなどが、社会的に男性的とみなされるか、女性的とみなされるかを表します。私の以前の同僚は「ハロー・キティ」が大好きな男性で、昼休みには編み物を楽しんでいました。女性的に振る舞いたいわけではなく、それが彼らしさだったので、もし周りからとがめられることがあったら、彼はのびのび働けなかったでしょう。

生物学的な性、性自認、性的指向、性表現の四要素は、すべての人になんらかの形で備わっており、血液型のように個人差があります。血液型はA型が立派でAB型だからダメだなんてことはありません。それと同じように、性の四要素についてもどれが優れていてどれが間違っている



## 性の多様性が病氣ととらえられていた時代

ということはありません。

二〇一九年、イギリスの五〇ポンド紙幣に、ある男性の肖像画が採用されたことが話題になりました。彼の名前はアラン・チューリング。一九一二年に生まれ、第二次世界大戦中にナチスの暗号「エニグマ」を解読したことで知られる天才数学者です。コンピュータの父と呼ばれ、AIの原型を生み出したとてつもない英才だったのですが、彼は一九五〇年代に同性愛を理由に逮捕され、異性愛への矯正療法を強いられて自殺した悲劇の人でもありました。

同性を好きになる人はいつの時代にも、どの社会にも存在してきました。古代ギリシャの哲学者プラトンは、恋人どうしの戦士がペアを組めば最強の戦力になると「饗宴」の中で書いています。日本でも長い間、同性どうしの親密な関係はごく一般的なことで、「奥の細道」で有名な松尾芭蕉も恋する男性へあてた俳句を残しています。

しかし、時代によっては迫害の対象になることもありました。第二次世界大戦中、ナチス・ドイツはユダヤ人にしたのと同様に、たくさんの同性愛者を強制収容所に送って殺害しました。戦争が終わっても、同性愛は犯罪や病氣だと思われ、電気ショック療法や脳外科手術なども行われました。そんな中で犠牲になった一人が、アラン・チューリングでした。彼の死から半世紀後、イギリスは当時の仕打ちは間違いであったと認め、公式に謝罪し、二〇一九年になって彼の肖像画をお札に起用するに至ったのです。